

# AERA Kids with

2019 夏号  
定価980円

小学生親必修



賢い脳・  
強い体をつくる

# 食事術



中学卒業後、インターナショナルスクールへ  
入学後4ヶ月で「高卒認定試験」に合格!

Interview 高梨沙羅さん

オリジナル感がグンと出る!

[ふくしま式] 読書感想文のコツ

プロも  
試した! ↓ 思考力系

# 算数教材78



別冊付録  
2019年  
中学受験ナビ

累計  
850万部  
突破!



サバイバルシリーズ  
全紹介!



会員も約300社に増えました。「シェア」という概念が、新たなビジネスとして日本でも普及し始めたと実感します。高濱 シエアリングエコノミーの概念を、わかりやすく説明してもらえますか。

石山 これまでの経済は、企業が提供するモノやサービスを私たち消費者が買いい、所有し、使うことで成り立っています。これに対して、シエアリングエコノミーは、個人が持っているモノや時間、スペース、スキルなどが商品になるので、私たち個人がサービスの提供者にも利用者にもなれるんです。たとえば、カーシェアリング。車も駐車場もみんなで共有して必要なときだけ利用するサービスですね。個人間のフリマも、日常的なものになっています。

昔は地縁による信頼に基づいていたものが、インターネットによって向こう三軒両隣からワールドワイドになつた。

モノを持つことに一生懸命になつて競争するのではなく、みんなで共有して仲良くしない?うて

## TALK

「シェア(共有)」で、人は  
もつと幸せになれる

大量生産・大量消費重視から  
共同所有・共同利用の時代へ

**高濱** 石山さんが事務局長を務めている「シェアリングエコノミー協会」は、3年前にできたばかりなんですよね。

**石山** はい。今は大企業も参入し始め、協会会員も勢ぞろいしてます。(ノエ)

**高濱** シエアリングエコノミーの普及に欠かせないのが、インターネット。



家も仕事も子育ても

**高濱** まさに僕はその最後の世代かもしれないな。実際、3軒の家で風呂が共同についた時代がありました。大きく違うの

石山 ぞれの形で利用して、自由に出入りしている様子がよくわかります。

**石山** 私たちの世代は、大量生産・大量消費を良しとする資本主義経済が限界にきた時代に育ちました。資源は有限だし、世界には問題が山積み、災害も絶えない。そうなると、結局、個人の幸せも社会の幸せとつながらないと実現できないのです。幸運なことか。これまでモノを持つことに一生懸命で、それを目的に競争してきたけれど、それよりもみんなで共有して仲良くしない?と。

**高濱** みんなで利用することに価値を置き、幸せを感じる。いいですね。石山さん自身も、都内のシェアハウスに住んでいるそうですね。

**石山** 私たちは、時代に育ちました。資源は有限だし、世界には問題が山積み、災害も絶えない。そこに正面から光を当ててくれるのが、石山さんたちだと思います。

**高濱** とても都会ですね。モノがいきわたりすぎて、つながる必要も機会もなくなって、結果、人間関係も希薄になつた。

**石山** そんな時代だからこそ、あらためて、何かを共有することで人とつながることを求めるようになつたと思うんですね。地縁や人脈がなくとも、インターネットによって目的に応じ、いろいろなモノを共有できるようになつたし、それが新しい喜びになつている。

**オフィス** ちなみにこの対談場所も、シェアオフィスですね。たくさんの人人がそれ

連載  
04

## 花まる学習会代表 高濱正伸の

# 花まる TALK

ゲスト  
一般社団法人シェアリングエコノミー協会  
事務局長

一般社団法人シーア派日本福音協会

株式会社スクエア・ソリューションズ  
事務局長  
**石山アンジユ**(いしやま・あんじゅ)さん  
1989年横浜市生まれ。国際基督教大学卒業  
(株)リクルート、(株)クラウドワークス経  
企画室を経て現職。NewsPicks「WEEKLY  
OCHIAI」のレギュラーMCを務めるほか、シ  
アリングエコノミーを通じ政府と民間のバイ  
役としても活躍中。近著に『シェアライフ』(一  
ロスマディア・パブリッシング)

「令和」と元号が変わった新しい時代に、「シアライフ」という新たな生き方の提案、普及につとめているのが、石山アンジュさんです。個人所有が当たり前だった時代から、人と人とのつながり、シェア(共有)することで生まれる豊かさについて、いっしょに考えてみませんか。



「シエアは、ギブ・アンド・テイクではありません。信頼に基づいたおすすめ分けの精神です」

(石山)



毎年、浅草サンバカーニバルに父と出場。  
自宅ではサンバコミュニティの人たちが  
出入りしていて、ブラジル国籍の人とも知り合  
うなど、多様性ある環境で育った

**石山** はい。最初は38人だったんですが、今では0歳から60代まで60人の多様な人たちがコミュニティーを作っています。

**高濱** 具体的にはどんなふうに生活しているんですか?

**石山** みんなから組合費をもらって共通の口座に入れて、何に使うかもみんなで決めます。血つながりはないけれど、意識ではつながっている、多様な価値観を共有できる家族。私は、「拡張家族」と呼んでいます。

**高濱** 役割分担はあるんですか?

**石山** とくにありません。みんなが自分でできることをできる範囲でしています。ずっとハウスに住んでいる人も、他に拠点が複数ある人もいます。お互いのスケルをシェアしていくよに仕事することもあれば、メンバーの赤ちゃんを交代で見たり、メンバーの親の介護のヘルプに行ったり。私はよく朝ごはんを作ります。よくみなさんから勘違いされるんですが、シエアは、ギブ・アンド・テイクではありません。

**高濱** 等価交換は資本主義経済ですからね。シエアは、損得勘定では考えない。

**石山** お互いさま、おすすめ分けという支え合いの世界なんです。いわば贈与経済。

**高濱** 結局は心の問題だと思います。知つてからです。メンバーの中によくできた弟もいれば、怠け者の妹がいてもいい。大切にしていることは、互いに問い合わせ合って、対話を続けることでしょうか。

**高濱** まさに家族のありよう、家族の本質的な部分を実践、実現していますね。僕は、家族に一番必要なのは、対話をたくさんすることだと思っています。なのに夫婦や親子でそれができているかというとできないことのほうがたくさんあります。だから、信頼できる人がたくさんいること、心の安定にもつながります。

**高濱** まさにそう。今のおかあさんたちは、親子というタテに閉じた世界の中でしかことできない。今や、拡張家族だからこそできることがたくさんあります。

**石山** 家族の定義は、人によって違っています。ただ、親子だから家族で、それ以外は他人です、と線引きをするよりも、その垣根となるべく低くして、家族の概念をどんどん拡張していくべきだと思います。自分と他を分けるのではなく、その人をどこまで信頼できるのか、それをどこまで拡張できるのか……。

**高濱** 信頼が、拡張家族をつくる。

**石山** そうですね。信頼できる人が増え

ていくことで、私たちの暮らしはより豊かに、幸せになると思っています。

**高濱** 結局は心の問題だと思います。知つておばちゃんの握ったおむすびは食べられても、誰が握ったかわからないものは食べられない。不安になる。

**石山** だから、信頼できる人がたくさんいると、心の安定にもつながります。

**高濱** まさにそう。今のおかあさんたちは、親子というタテに閉じた世界の中でしかことできない。今や、拡張家族だからこそできることがたくさんあります。

**高濱** しっかりと軽いおしゃべりはできても、しんどいことをシエアできず抱え込んで煮詰まってしまう。でもそこにおむすびのおばちゃんが「まあまあ……」って声をかけてくれるだけで、肩の力が抜けて、声を

荒らげるのをやめることができます。子どもの手を離して、拡張家族の誰かにまかせることだつてできる。

**石山** 私、拡張家族のゴールは世界平和だと思つてるんです。昔から戦争映画が好きで、紛争や貧困問題にも興味がありました。大学でも、世界平和の研究をしていました。でも政治や経済は結局利害関係で動くから、その方法では解決できないことがわかつて。世界はなんて不思議なんだろうと悟つてしまつたというか。でも拡張家族は違う。ひとごとだと無関心にスルーしてしまうことも、家族のことなら自分ごととして一生懸命考えますよね。シエアって自分がことになることだから、そうやって少しずつ広がつて世界の果てまでつながれば……。拡張家族の発想であれば、世界平和が実現できるのですと思つています。

**高濱** タテだけでなくヨコにもナナメにもつながろうという視点ですよね。それはほんとに大切だと思う。石山さんのその発想はいつごろからあつたんですか。

**背景** があるから、ふつうのおかあさんたちはとてもまねできないって思つてしまつがちだけど、どうですか、シエアに関する周囲の反応は。

**石山** それが意外と共感してくれるのは、女性が多いんです。ママも多いですね。今は実践していく中でも、シエアの良さをわかってくれます。むしろバブル期を謳歌していた世代、とくに男性のほうが、すんなりとは入つていけないみたい。

**高濱** わかるわかる! 男性は共感に価値を求めるのが苦手ですからね(笑)。でも女性は共感でつながれる。

**石山** とりあえず、なんでも所有するのではなく、まずは利用することから始めてみればいいんじゃないでしょうか。

**高濱** ながることで、人との垣根は確実に下がります。信頼できる境界線が広がれば、それだけできることがたくさん増えていくと思います。

**高濱** 子育ても自分で背負わずに、垣根を越えて隣のおばちゃんやママ友同士でまずはシエアしてみる。家族の一員のように対話してみる。それだけでグンとラクになりますからね。

**背景** があるから、ふつうのおかあさんたちはとてもまねできないって思つてしまつがちだけど、どうですか、シエアに関する周囲の反応は。

**高濱** それが意外と共感してくれるのは、女性が多いんです。ママも多いですね。今は実践していく中でも、シエアの良さをわかってくれます。むしろバブル期を謳歌していた世代、とくに男性のほうが、すんなりとは入つていけないみたい。

**高濱** わかるわかる! 男性は共感に価値を求めるのが苦手ですからね(笑)。でも女性は共感でつながれる。

**石山** とりあえず、なんでも所有するのではなく、まずは利用することから始めてみればいいんじゃないでしょうか。

**高濱** ながることで、人との垣根は確実に下がります。信頼できる境界線が広がれば、それだけできることがたくさん増えていくと思います。

**高濱** 子育ても自分で背負わずに、垣根を越えて隣のおばちゃんやママ友同士でまずはシエアしてみる。家族の一員のように対話してみる。それだけでグンとラクになりますからね。

対談を終えて

「家庭」や「家族」の固定観念をも覆す!

子どもたちの健やかな成長のおおもとが「母の安心」で、それは「親がどう頑張るか」ではなく、「どれだけ周りの人とつながっているか」がカギだと、私の答えは出ている。正解が必要なのではなく、母には寄り添い共感し、ねぎらい続けてくれる「人の網」が必要なのだ。ところが地域のつながりはどうに消滅し、決定打は見当たらなかつた。

シエアハウスの話を石山さんから聞いたとき、「これだ!」と感じた。「家庭や家族とはこういうもの」という強固な常識觀をグイと変容させる、ある意味で革命だ。唯一解

とは思わないけれど、皆がガチガチに思い込んでいた家庭像が、これを機に拡張していくだろう。

この、しなやかな改革の旗手は、行動的で人間好きで感性豊かなご両親が育んだことがわかつた。やはり、親の生きざまこそ、最も大きな影響があるのだ。

## 「親子というタテの関係だけではなくヨリにもナナメにもつながつてほしい

(高濱)



**石山** やっぱり育つた環境ですかね。私は一人っ子でしたが、いつもたくさんの人に囲まれていました。母は私を産んで2週間で海外出張に行くほどバリバリ仕事をしていました。私は母乳をほとんど飲まないで育つたんじゃないかな(笑)。でも母は、ご近所ネットワークをちゃんと築いてくれていたので、近所には、私が行くところを食べさせてくれて、かわいがってくれる人たちがいつもいました。

**高濱** お父さんはどうでしたか。

**石山** 父は、サラリーマンを辞めたあと、世界を放浪して作家と音楽家に転身した

**石山** やっぱり育つた環境ですかね。私は一人っ子でしたが、いつもたくさんの人に囲まれていました。母は私を産んで2週間で海外出張に行くほどバリバリ仕事をしていました。私は母乳をほとんど飲まないで育つたんじゃないかな(笑)。でも母は、ご近所ネットワークをちゃんと築いてくれていたので、近所には、私が行くところを食べさせてくれて、かわいがってくれる人たちがいつもいました。

**高濱** お父さんはどうでしたか。

**石山** 父は、サラリーマンを辞めたあと、世界を放浪して作家と音楽家に転身した

**石山** やっぱり育つた環境ですかね。私は一人っ子でしたが、いつもたくさんの人に囲まれていました。母は私を産んで2週間で海外出張に行くほどバリバリ仕事をしていました。私は母乳をほとんど飲まないで育つたんじゃないかな(笑)。でも母は、ご近所ネットワークをちゃんと築いてくれていたので、近所には、私が行くところを食べさせてくれて、かわいがってくれる人たちがいつもいました。

**高濱** お父さんはどうでしたか。

**石山** 父は、サラリーマンを辞めたあと、世界を放浪して作家と音楽家に転身した

**石山** やっぱり育つた環境ですかね。私は一人っ子でしたが、いつもたくさんの人に囲まれていました。母は私を産んで2週間で海外出張に行くほどバリバリ仕事をしていました。私は母乳をほとんど飲まないで育つたんじゃないかな(笑)。でも母は、ご近所ネットワークをちゃんと築いてくれていたので、近所には、私が行くところを食べさせてくれて、かわいがってくれる人たちがいつもいました。

**高濱** お父さんはどうでしたか。

**石山** 父は、サラリーマンを辞めたあと、世界を放浪して作家と音楽家に転身した